

(9) 四国



四国地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

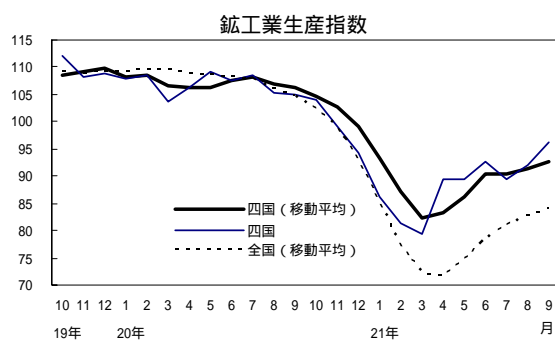
前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年8月)	今回(平成21年11月)	
鉱工業生産	持ち直している	<u>緩やかに持ち直している</u>	
雇用情勢	悪化	<u>厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やか</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

化学は、インフルエンザ対応の医薬品が好調で、ポリカーボネートも堅調であったことから、増加している。電気機械は、自動車、電子部品向けの計数半導体集積回路等を中心に増加している。食料品は、めんつゆやたれ、菓子が堅調であったことから、おおむね横ばいで推移している。パルプ・紙は、広告需要の減退もあり、印刷用紙が低調なことから、減少している。一般機械は、建設機械は低水準で推移しているが、ベアリング等での回復の動きにより、全体では上昇している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
化学	17.1	14.0	9.2	7.5	12.9
電気機械	15.4	27.4	13.4	18.0	10.9
食料品	13.6	2.9	0.9	0.9	1.4
パルプ・紙	11.8	8.9	4.1	1.3	7.5
一般機械	8.9	17.2	4.9	9.6	3.5
鉱工業	100.0	10.0	2.2	1.1	2.9

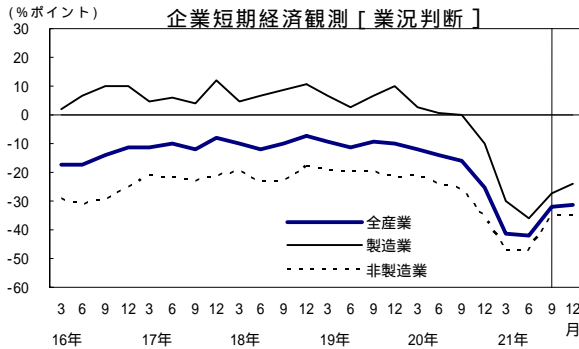
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7~9月期は速報値。

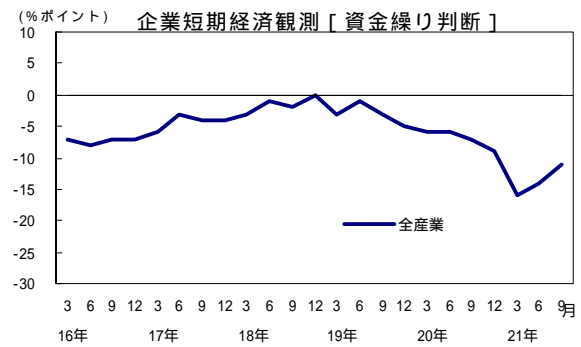
3. 電気機械には、情報通信機械、電子部品・デバイスを含む

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

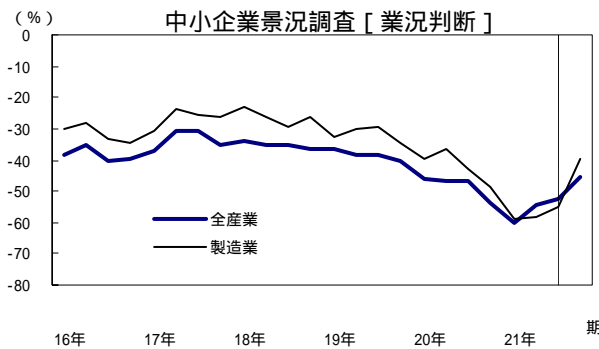
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年12月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

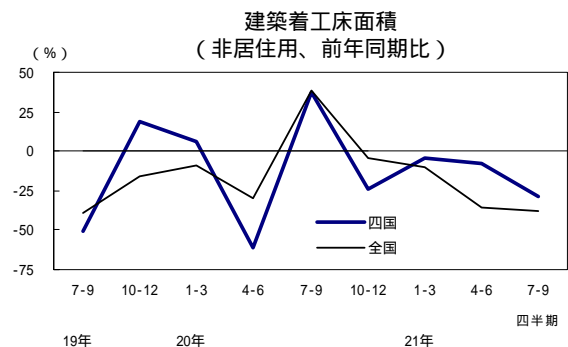
「主要顧客である製紙会社の原料使用数量が昨年同期からは回復基調となっているものの、4月以降は横ばい状態である。また、他の製造業者においても同様の状況である(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	17.4	17.3 [16.0]
製造業	21.0	36.9 [34.0]
非製造業	12.5	7.3 [6.7]

(備考)[]は前回(6月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

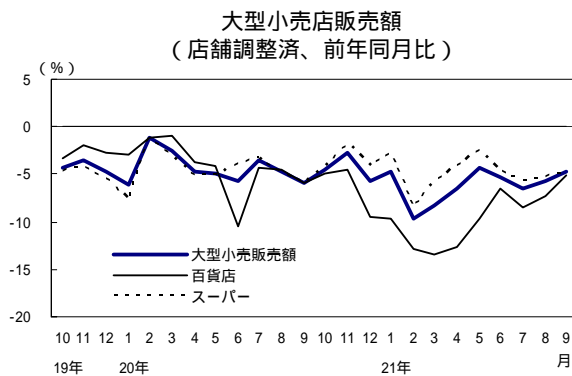
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、低温多雨で梅雨明けも遅かったこともあり、衣料品を中心に夏物商材が不振であったことから、引き続き前年を下回った。8月は、時計や宝石など、高額商品に加え、婦人服を中心に衣料品も低調であったことから、前年を下回った。9月は、大型連休を含む前後の期間に、物産展では菓子をはじめとした食料品が堅調で、秋物衣料の一部でも動きがみられ、前年比での下げ幅は縮小した。なお、中国四国百貨店協会によると、四国地区の10月の売上高は前年同月比で9.6%減となっている。

スーパーは、天候不順で夏物商材は不振で、生活防衛意識による買い控えに加え、競合店の影響も依然として続き、気温の低下につれて秋物衣料の一部に動きがみられるものの、衣料品全体、また、身の回り品は低調で、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「一部の取引先の飲食店では新しいメニューを作るなど、自助努力で売上を伸ばしているところもあるが、全体では景気は底ばいが続いている感じがする(一般小売店[酒類])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



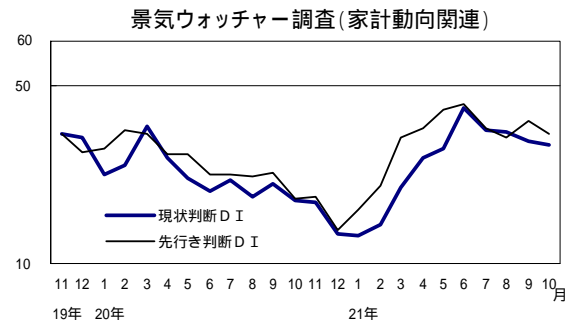
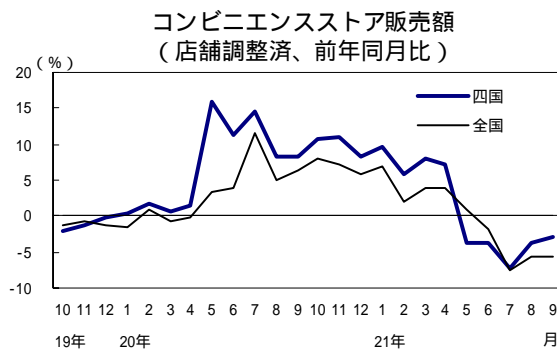
(前年同期比、%)

	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	4.5	7.4	5.4	5.8
百貨店	6.7	11.8	9.7	7.2
スーパー	3.5	5.6	3.8	5.3
乗用車	10.9	18.0	10.8	13.8
景気ウォッチャー	21.5	20.7	38.2	39.0

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

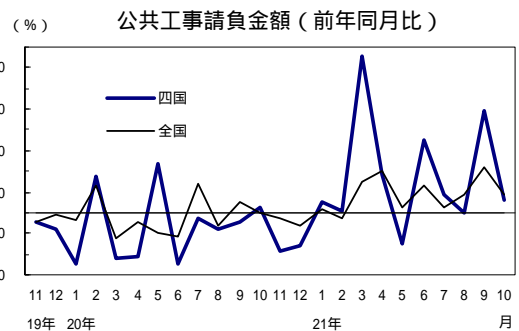
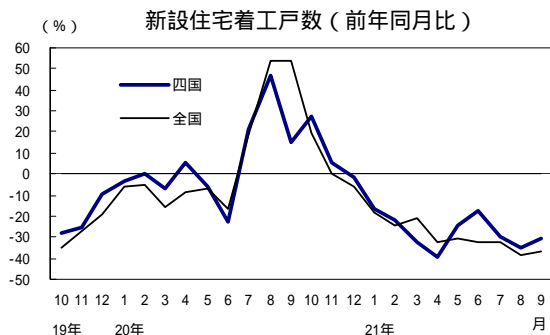
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

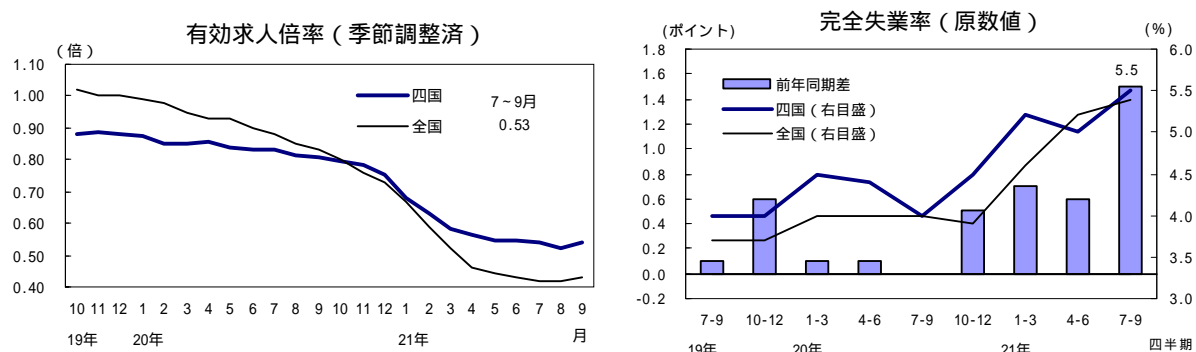
貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連 (現状)]

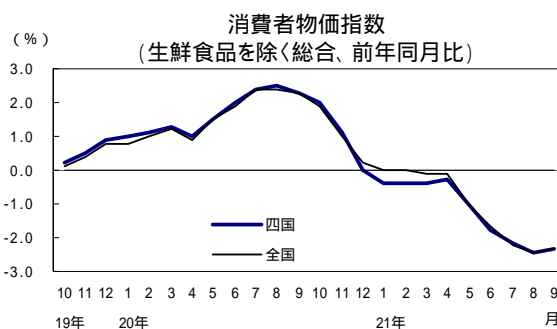
「雇用調整を必要としなくなった企業がある一方、新たな雇用調整実施企業も発生し、全体としては変動がない (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数が大幅に減少し、負債総額も減少している。

- (3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月	21年10月
倒産件数 (前年比)	104 13.0	124 49.4	100 1.0	85 30.9	46 9.5
負債総額 (前年比)	188 4.5	603 139.7	231 33.0	326 13.0	114 52.6



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・エコカー減税の効果等に伴い、新型ハイブリッド車をはじめ減税対象車の販売量が増加している (乗用車販売店)。

<先行き>

- ・新型インフルエンザのワクチン接種開始により、社会的不安の解消が期待されるが、年内の効果の表れは不透明である。また、旅行をはじめとしたレジャー産業での景気回復は他業種と比べて通常遅れがちであるため、先行きはいまだ不透明である (旅行代理店)。

